

1 はじめに

(1) 学校の概要

本校は宮崎市南部清武町木原にある「福祉ゾーン」に立地している。

知的障がいを対象とした特別支援学校であり、小学部 80 名、中学部 46 名、高等部 66 名、総計 192 名の児童・生徒が在籍している。隣接する障がい児・者支援施設等に入所し、通学する児童・生徒が 16 %ほどの比率である。(高等部においては 30 %の比率)

2023 年度から NIE 実践指定校となり、9 月から新聞購読を開始した。知的障がいのある特別支援学校での NIE 実践の例があまりないこと、在籍する児童生徒の年代層が広く、一般紙では「ふりがな」がないことに加え、文字数も多いため、どこまで新聞を教育活動に活用できるか手探りで進んできた実践を報告したい。

(2) 学校のめざす児童生徒の姿

「みなみのかぜ」の校名に則し、校訓は「み・な・み」の頭文字からはじまる。「みつけよう」「なりたい自分」「みらいに向かって」を目指す姿に掲げている。

(3) これまでの新聞活用

NIE 実践指定を受ける前の本校では、宮崎日日新聞「こども新聞」(毎週土曜日発行)を図書室に掲示しているほか、高等部で生徒指導部が窓口になり、「朝日小学生新聞」(毎日発行)を購読していた。しかし、コロナ禍により、図書室も密をさけるため、「予約での活用」となったり、生徒会活動もリモート等が主体になったりと難しくなり、掲示等の活用も下火になっていた。新聞との関わりについては、本校児童・生徒・職員が掲載された文化活動(美術・音楽等)等の記事を廊下に掲示してみんなが見たり、各教室でそれらの記事についてふれていくことが中心だった。

2 実践の内容

I 新聞コーナーの設置

小中学部向け（視聴覚室⇒図書室前）と高等部（PC室前）に分けて設置した。

新聞閲覧コーナーの設置(小中学部棟)

図書室の横に移設(12月より)。図書室は通常は施錠の本校。こども新聞は図書室中に保管。一般紙(広告含む)は外に設置した。



新聞閲覧コーナーの設置(高等部)



令和5年9月1日から新聞の購読（一般紙）を開始し、児童生徒の実態から、高等部棟を優先に掲示した。2紙を2カ所に振り分けたが、高等部の現場実習（半数の生徒が2週間校内不在）等もあり、1ヶ月に1紙のみを購読する調整があり、小中学部では10月・11月・12月・1月の4ヶ月、高等部では9月～2月に一般紙を掲示した。

- スクラップも1ヶ月分、曜日ごとに固めて配置して、授業等での持ち出しをしやすくした。

- ・ 昼休みなど、自由に閲覧ができるように工夫したが、生徒が新聞を拡げて見ている場面はあまりなかった。ＰＣ室は鍵を解錠してオープンにしていたが、その机上で拡げて見るところまでに至らなかった。児童・生徒への広報不足を痛感している。

Ⅱ 本校における新聞の活用状況について（２月上旬実施）

本校の職員にアンケートを実施し、活用状況をまとめた。

活用比率については一般紙１６％、こども新聞が９％、活用なし５８％。

（小中学部では、児童生徒の実態からくるもの（ふりがなのない、一般紙は文字が多い、地元紙のこども新聞が週１回での発行であること、などから活用がしにくかったという報告も少なくなかった。

使用した分野	具体的な内容・活動場面
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記事や誌、作文などの紹介（中） ・ ことばさがし（小・中・高） ・ 「新聞を読もう」「視写しよう（こども新聞・天声人語）」（高） ・ 『健康歳時記』など・・暑中見舞いの作成前に記事をよんで見通しを高める（高）
防災学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科・・防災グッズづくり（素材）・・スリッパや袋等 ・ 災害（風水害・震災）記事の紹介とよみとり（中・高） （写真や記事から読み取ったり、わかったことを感想を発表する）
体育関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校総体・障がい者スポーツ大会、国民体育大会関連の記事、水泳 ・ スポーツ選手のインタビュー記事などを読む ・ 相撲の番付表・・興味ある生徒に活用（小）
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作曲家の記事（高）：宮沢賢治の「星めぐりの歌」の学習前に、星座と宮沢賢治の記事を活用した。
特別活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の会などでの話題紹介（全学部）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気になったことニュースの発表（高） ・ 進路学習・・・実際の就労現場やマナーに関する記事などで活用（高）
素材としての活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術：立体製作（中・高） 新聞テープ（両面テープ貼付） ・ 汚れ防止（全学部） ・ 文化祭の小道具（全学部）・エコバックづくり ・ ペーパーログ作成（作業学習）

Ⅲ 実践事例について

高等部３年生での取組（私の担当学級と所属学年での取組について）

（１） 実態把握を通して（見えてきたギャップからの軌道修正）

５月末から国語の授業４回分において、１日分の一般紙新聞（期日は３～５月過日分の不揃い）を１人１部ずつ配り、「一番気になった記事」について分野を指定せずに自由に挙げてもらうところからスタートした。

ところが、生徒の関心が薄かったり、意外なところで停滞して広がりにくかったり、焦点を絞ったり、言語化することが難しい状況があった。各家庭での新聞購読率が２５％くらいであるという状況もあり、想像以上に指導者の見立て外れの現実戸惑った。

① ラジオテレビ欄に対しても関心の薄さ

・ 最近ではテレビの「番組表」で事足りていて、「新聞にある」ことを知らない生徒がいたこと

に驚いた。

② 記事へ関心をもつこと（選択）や要約力（文字化）にかなり時間を要すること。

③ 特定の（思わぬ）記事へ固執してから離れられない場面があること。

週間天気・気温や好きなキャラクターの名前があるとその範囲にしか興味を示さず、授

業のねらいから逸脱して戻りにくい生徒がいた。

そこで、新聞を授業で扱うにあたり、トピックの選択・要約・まとめでなく、「具体的に絞った題材を提示」して、「探索」「想像」「表現」に活動の重点を置くことにした。

（２）防災学習での新聞活用

①ねらい

- ・ 「関東大震災」の被害の大きさを読み取り、大地震は圧死だけではなく、遅れてくる火災

被害も大きくなることを意識させる。

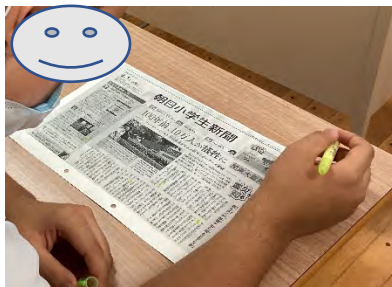
②方法・取組の実際

- ・ ９月に学級で実施。朝日小学生新聞（2023年9月1日号）を使用。小学生新聞を活用

した理由はふりがなが入っていることで、生徒が「難しそう」という抵抗感を緩和するため。

- ・ 亡くなった人の数字・場所等について記載されているところを蛍光ペンでマークさせる。

- ・ 発生後の時間経過（～日の出来事）を示す文字に蛍光ペンでマークさせる。



③成果と課題

(成果)

・ 少人数集団での学習だったこともあり、罹災者数など、ポイントを絞って記事に注目する

ことができた。

・ あえて記事を iPad 上でテキスト化せず、「いろいろ操作したい」と注意が逸れ課題に集中できない生徒への環境を整えたことで、紙面からの読み取りに集中できた。

・ 地震の揺れが治まってからも時間経過で火災等が生じて被害が続くことを意識できた。

避難訓練では避難したら終わり・・・という感覚がつきがちなところを修正できた。

(課題)

・ 5千人・十万人といった数の具体的な量感イメージをもたせるのがむずかしかった。

(本校全児童生徒25校分や都城市の全人口と同じくらいの数の表現では描きにくい)

(3) 国語での新聞活用

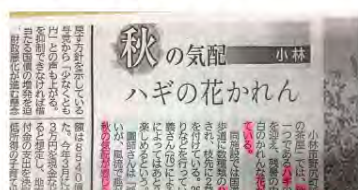
国語における目標(思考)について、「筋道立てで考える力や豊かに感じたり想像したりする力を身につけ、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができる」を具現化するために、2つの題材を設定した。

A 季節のことはさがそう・・・宮崎日日新聞(令和5年9月27日号の記事を活用)

新聞を活用した「国語」授業の実践例・・・1 「季節をあらわすことば」さがし

活動

- ①指導者の朗読を聞く(2回)
(難しい漢字はよみがなを
板書して示す)
風流・気配・残暑 など



○よかったところ

・生徒が競うようにして記事を見て探索していたこと。

◇次回への改善点

B 場面を想像して表現しよう（「吹き出し大喜利」をとおして）

（宮崎日日新聞こども新聞令和5年9月9日（土）号などの記事を活用）

①ねらい・・・吹き出しに入る登場人物やものの気持ちを想像して表現する（書く・入力する）

入れたことばをお互いに鑑賞し、表現の幅や意欲を高められるようにする。

工夫したところ

- ①段階的に入力
「手書き」を最初にして
学習活動の見通しを高める
- ②タブレット入力することで
「書く」苦手さを緩和する
- ③電子データとして残り、編集・保存
がしやすいようにした。
- ④お互いの作品をエアドロップでやり
とりさせることで、製作意欲や鑑賞
の活性化を図った。

みんなもチャレンジしてみよう
（吹き出し大喜利）ふきだしおおぎり
水の中でつぶやく クラゲさん。
どんなものかことをつぶやいているか
そうぞうして かいてみよう！

Passes形式の入カシート

宮崎日日新聞 こども新聞
令和5年9月9日（土）などの記事を活用

9 月実施分の作品

毒があるくらげは泳ぐ
とうめいだけど

わー目が回って
ぜんぜん見えないバブル

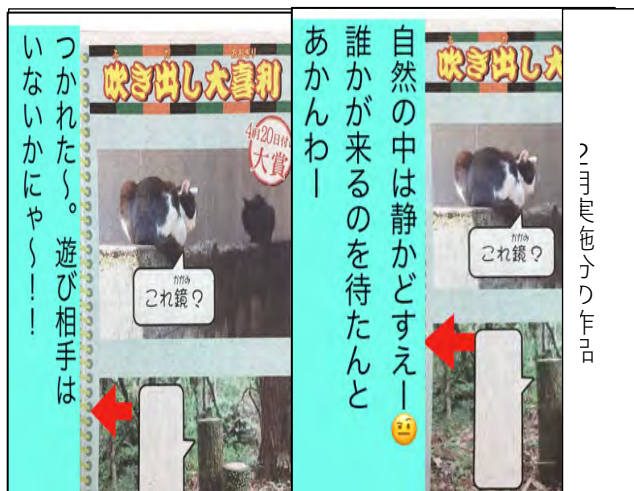
吹き出し大喜利
8月8日大賞
日傘がわりどうぞ

授業のようす(令和6年2月2日(金)実施)

いつもは1クラス4人での実施が多いところ、隣のクラスと合同で8人で行うことで作品がたくさん集まり、生徒の表現の幅を一気に広げることができた。
(「方言」を入れての面白い表現等)



自分の作品を他の生徒へ転送して、互いに見ることで、気付きやよさを認め合う。Airdropの恩恵



よかったところ

- ① 生徒がお互いに主体的に学び合い、想像力・表現力を高めることができた。
- ② Airdrop による作品交換と鑑賞で製作（表現）意欲が高められた。ICT 活用。

3 次年度へ向けての課題

学校全体で NIE 活動を浸透・活性化するまでには至らなかったため、3 点の工夫・改善に努めていきたい。

- ① 学部単位での活用促進に向けて、「これは使える」の授業例・教材提供・開発を定期公開して、広め、活用の底上げを図る。
- ② 掲示コーナーの充実。気になる・面白いトピックの掲示（新聞閲覧コーナー）と定期配信の実施。

（職員向けは「学校共有システム（ミライム）」・児童生徒向けは校内 Web（生徒学習端末のファイルサーバー）上にて電子掲示する。

- ③ 「吹き出し大喜利」の校内コンテストなどの企画を行い、児童生徒の関心や表現力の向上につながる仕掛けを大きくしていく）